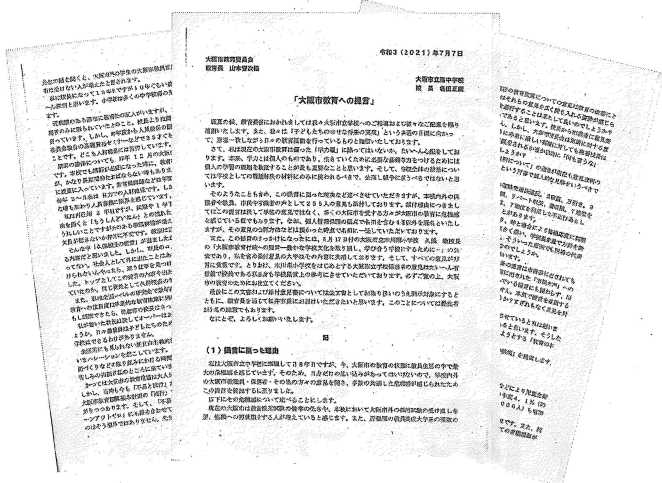


大阪市への教育提言と意見書

大阪市が公文書として開示

大阪市教育への中学校校長の提言と保護者ら255人から寄せられた意見書が先月、山本晋次市長に提出され、公文書として開示されました。立港中学校の名田正廣校長が先月、山本晋次市長に提出したのは、大阪市長です。名田校長による「大阪市教育への提言」に255人の意見書を添付資料として出しました。



開示された大阪市教育への提言

「大阪市教育への提言」は、大阪市立木川南小学校の久保敬校長が5月、実名で松井一郎市長らに送った「大阪市教育行政」

への提言」でした。久保校長の「提言」では、子どもたちがテストの点数による選別や競争にさらされていることや、3回目の緊急事態宣言発出に伴う松井市長の全小中学校オンライン授業発言による問題点などを指摘。「競争」ではなく「協働」の社会を根本的な教育の在り方、政治や社会の在り方を見直す必要性が述べられました。

「提言」が大きな反響を呼ぶ一方で、大阪維新市議が市議会で市の職員基本条例違反と処分の可能性に言及。松井市長も「処分の対象になる」などと発言していました。こうした中で、久保校長の「提言」に共感した名田正廣校長がSNSにも見られない新自由主義

大阪市長です。名田校長による「大阪市教育への提言」に255人の意見書を添付資料として出しました。

「競争」でなく「協働」の社会を

「学力を試される機会の増加による学校生活の息苦しさや余裕のなさ」は、子どものウェルビーイング(心理的幸福)の低下に直結する」と指摘。橋下・吉村・松井市政を通じて大阪市の小中学校の不登校率上がり続けてきたことを示し、「改革が、子どもの心理的な満足度を高めるものではなかったことを表している」と述べた上で、「子どもにも寄りそう教育現場の声を聞く教育体制に改めてほしい」としています。

255人の意見書から

「競争」でなく「協働」の社会を パワハラ免れぬ松井市長の発言 子どもに寄り添う教育体制に

「競争」でなく「協働」の社会を、私も目指したい」と寄せました。元大阪市立中学校校長は、「部下の意見を聞か

からといって、今回の市長の発言は、パワハラスメントとの批判を免れない」と述べ、大阪市立中学校教員は、「ニュース

に伸び伸びと子どもと接する大阪を取り戻したか、市長のパフォーマンスのために利用しないでほしい」と訴えています。争いあうものへと変わ